

門礎石、階段を確認

延岡市教委 延岡城石御門跡 発掘調査結果

新たに排水溝跡を発見

延岡市教育委員会文化課は28日、延岡城石御門跡の発掘調査の結果を発表した。三階櫓（やぐら）跡北側下段の三ツ丸石御門跡周辺の62平方メートルを調査。門の柱を支える土台となる礎石や、門の北側の一段高い曲輪（くるわ）への階段が見つかり、絵図などに描かれる門や階段の存在を実際に確認できた。また、新たに登城道沿いに雨水対策の排水溝跡も見つかった。

市は1889年から城山公園整備事業に着手。400年以上の歴史ある城山の石垣などを地域おこしに活用するため、石垣のライトアップや樹木の枝切り、落石防止対策、埋蔵文化財調査

調査地は、城山南麓車場方面から城の真下に当たる掘（からめ）手塚を登り三ツ丸に入る地点

「有馬家中延岡城下屋敷並絵図」など各種絵図には、同地点の岩盤を削った「切り通し」の部分に

互ぎ門が描かれているが、絵図によって門の柱の数や袖塀の有無などさまざまであった。

調査の結果、石御門跡は、南側に門柱を支えた礎石・阿蘇溶結凝灰岩の礎石を三つ、北側に一部岩盤を活用した同数の門

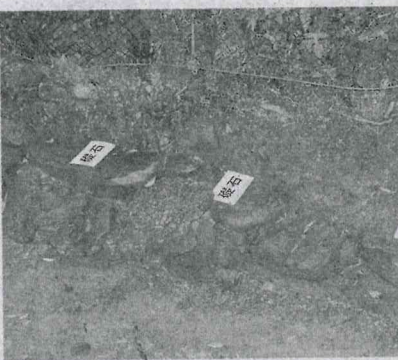
柱跡を検出した。礎石の間隔は1・3メートルで合計2・6メートル、南側の礎石と北側の岩盤柱跡間は3・2メートル、真ん中は扉を取り付けるため、門の種類は四脚門と推測される。

唯一、門の規模が記された1855（安政2）年の「日向国延岡城修理絵図」には、高さ約4・65メートル、桁行約5・1メートル、7段あり、礎石に支えられた門柱上に同規模の互ぎ門があった可能性がある。同絵図は幕府に修理を届け出る際に提出するもので、前年の安政地震の影響が考えられる。

門跡から城内に入った高さ曲輪への階段跡は、



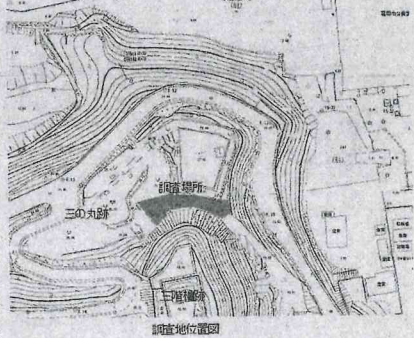
岩盤を削ってつくられた一段高い曲輪の5段階



石御門跡南側で検出された砂岩・阿蘇溶結凝灰岩の三つの礎石



発掘調査で門礎石、階段排水溝などの遺構が見つかった延岡城石御門跡



調査地位置図

新たに見つかった排水溝は、調査地南側の岩盤に沿って東西に延び、溝は北側の壁は石積みだが、南側の壁は岩盤をそのまま活用している。延長は15・8メートル、溝幅は40センチ、深さは30〜80センチ、50センチあり、溝には石でふたがされ、門外は埋設、門内は露出していた。門の礎石もまたの一部として活用された。工夫もみられる。

市教委は、今回の調査で見つかった遺構について、来月まで公開した後、発掘調査の写真や結果の説明などを記したパネル看板の設置など、可視化

できる形で整備を検討するという。

文化課埋蔵文化財調査員の高浦哲さん（48）は「延岡城は純日本100名城に選定され、魅力が高まっている。江戸時代に築城された真内唯一の近世城郭で、これだけの石垣が残っているのは延岡城だけ。多くの人に来城してほしい」と話している。

鞍岡は氷点下0・4度

けさの県内は高気圧に覆われ、北から冷たい空気が入り込んだ影響を受けて、山沿いを中心に冷え込んだ。鞍岡で氷点下となった。古江でも今季最低となった。

【きょうの最低気温】鞍岡▽水点0・4度▽高千穂▽1・2度▽神門▽2・4度▽延岡▽4・8度▽古江▽4・8度▽日向▽4・9度

2019.11.29